

研究に関する情報公開について

研究課題	当院における Zone V 手指伸筋腱断裂に対する ICAM 法（制限下早期自動運動）を用いた作業療法実践について
研究機関の名称	医療法人社団友志会 石橋総合病院リハビリテーション科、整形外科
研究責任者	清永健治
研究対象者	2019 年 4 月から 2025 年 6 月まで当院で手指伸筋腱断裂に対し腱縫合術を行い、術後 3 カ月まで経過観察可能である症例を対象とします。
研究の目的・意義	<p>手指伸筋腱断裂術後のハンドセラピィでは、これまで石黒法やリバースクライナート法などが行われてきたが、スプリント等の使用が煩雑になりやすいという問題点がありました。これらに対し、2005 年に米国で発表された Immediate controlled active motion(以下、ICAM法)が近年普及しつつあり²⁾、当院でも2019年から導入を開始しております。</p> <p>ICAM法とは、手指伸筋腱国際分類Zone IV～VII の手指伸筋腱断裂縫合術後の患者を対象とし、Yoke パーツを用いて損傷指を減張位として健常指と運動させ、縫合部の負荷を減少させながら自動運動を行なう方法です。Yoke パーツは損傷指のMP関節を健常指より 20° 程度伸展位に保持するように作製します。損傷指を減張位に置き、健常指の伸展力を利用し健常指とパーツを介して連結させることで、指屈伸運動を行っても縫合腱の離開が防ぐことができるとされております。また、これに加え日中は手関節背屈20度に設定した掌側カックアップスプリントを装着し、決められた回数の指自動運動を繰り返し行い、関節拘縮の予防や腱滑走を維持に努めます。当院では先行研究のプログラムに則り臨床で実践しています。</p> <p>今回、複数の患者様に対してICAM法にて作業療法介入を行った結果、比較的良好な成績を得られたので、治療成績の報告として発表を行い、さらに当方法について理解を深めたいと考えました。</p>
研究方法	2019年4月から2025年6月まで当院で手指伸筋腱国際分類Zone V の手指伸筋腱断裂に対し腱縫合術を行い、術後3カ月まで経過観察可能である患者様を対象とします。診療録より後方視的に情報を収集します。
研究期間	石橋総合病院倫理委員会の承認を受けてから 2026 年 3 月末まで。
研究に使用する情報	以下の情報を使用します。 術後 1, 2, 3 か月時における手指自動可動域、%TAM、日本手外科学会の指伸筋腱機能評価による 成績、患者様ごとの年齢・性別・罹患指、損傷指形態。
研究に関する情報公開の方法	対象の方でご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の資料（学会に提出する演題抄録、発表演題のデータ）を研究責任者と対面で閲覧することができますので、お申し出ください。
個人情報の取り扱い	診療録から抽出する情報は、個人が特定できないように、研究責任者が病院 ID、氏名、生年月日の情報を削除し、個人の特定できる情報を新たな符合に置き換えた上で研究に使用します。データは研究責任者がリハビリテーション部門内で厳重に保管します。新たな符合と個人を特定できる対応表を同様に厳重に保管

研究に関する情報公開について

	します。また、研究成果は、個人を特定できないようにして学会発表や論文などで報告します。
研究組織名称	医療法人社団友志会石橋総合病院リハビリテーション科 清永健治（研究責任者）
問い合わせ先	<p>【研究責任者】</p> <p>医療法人社団友志会 石橋総合病院リハビリテーション科 清永 健治 〒329-0596 栃木県下野市下古山1-15-4 電話：0285-53-1134</p>